

2743 岡山学芸館高等学校

# グローバル社会に貢献できる リーダー育成のための研究開発

SGH運営部長 橋ヶ谷 多功



グローバル社会に貢献できるリーダーが必要とする資質・能力



グローバル・マインド



問題解決能力



交渉型  
コミュニケーション  
能力



協働力



実践力

### グローバル課題研究Ⅰ～Ⅲ

「開発途上国における貧困の悪循環を是正するために高校生が貢献できること」



1年	2年	3年
<p>開発途上国の貧困をテーマとした課題研究</p> <p>「教育」と「環境」の2つのアプローチから課題を解き明かし、貧困の悪循環を是正する</p> <p><b>研究テーマ例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「開発途上国における教育と貧困の因果関係」</li> <li>●「開発途上国における循環型社会の実現を阻む要因」</li> </ul> <p>1年次実践活動(海外視察)のイメージ図</p> <p>開発途上国の現状視察</p>	<p>カンボジアをフィールドとした課題研究 カンボジアでの貢献活動の計画</p> <p>カンボジアが抱える貧困の課題を解き明かし、研究内容を活かした海外・国内貢献活動を行う</p> <p><b>研究テーマ例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「カンボジアにおける教育機会拡大」</li> <li>●「カンボジア都市部におけるゴミ問題」</li> </ul> <p>2年次実践活動(貢献活動)のイメージ図</p> <p>カンボジアでの海外貢献活動 国内貢献活動[45万円プロジェクト]</p>	<p>課題研究成果の再策定 課題研究成果の普及活動</p> <p>貢献活動計画の振り返り・再策定・ポートフォリオの完成、研究成果の普及に取り組む</p> <p><b>普及活動例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークショップ型出前授業</li> <li>●海外高校生とのフォーラム開催</li> </ul> <p>3年次実践活動(普及活動)のイメージ図</p> <p>小学校でのワークショップ型出前授業</p>

### グローバルリーダーを育成する授業

**英語**

プレゼンテーションやディスカッションなど様々な場面で英語交渉能力の修得

**国語**

テキストの読解を通した論理的思考力・批評的思考力の修得

**世界史**

「世界の中での日本」の考察を通したグローバル・マインドの養成

**社会と情報**

ICTを用いた問題解決能力とコミュニケーション能力の向上

#### 主な連携大学

岡山大学(SGU)  
大学院 教育学研究科、環境生命科学研究所

#### 主な連携機関

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド  
 Bio Energy Cambodia Corporation Co.,Ltd

# ■ 対象科コースについて

科コースの編成とSGH対象		特性	対象生徒数
普通科	清秀高等部 	6カ年教育専用コース	74名
	医進コース 	旧帝大、最難関私大、医学科 ※理系特化型カリキュラム	54名
	スーパーVコース 	旧帝大、最難関私大	240名
	特別進学コース 	難関大学	415名
	進学コース	文武両道による進学	549名
英語科 	2年次に1カ年留学	79名	
SGH対象生徒数			<b>862名</b>

## 多様な生徒に対するカリキュラム開発研究

# ■グローバル課題研究 I の特徴



< 1年次の目標 >

グローバル・マインド(多様性への理解)と論理的思考力の育成

- ① 目的意識を持った高大連携授業で  
課題研究に必要な倫理観を醸成。
- ② SGH担当教員が教材を作成し、  
毎年改定を加える。
- ③ 対象クラスをSGH専用クラスに全シャッフルし、100分授業で展開。

# ■グローバル課題研究Ⅱの特徴



< 2年次の目標 >

Action Planの策定と実行を通した5つの資質の習得

- ①机上で終わらせない課題研究の実施。  
(必ずAction Planを策定し、実行する。)
- ②14のゼミナールを開講し、生徒の興味関心に沿った課題研究を実施。
- ③ゼミ活動費を予算計上し、指導者の自由な指導を促す。
- ④外部連携の推進(NPO、行政、大学等)



# 14プロジェクトの活動を開始しました!

グローバル課題研究IIでは、14のプロジェクトを開始しました。生徒たちは自身が希望したプロジェクトに入り、ゼミ形式の講義を受講しています。

現在は問題意識を明確化させるための先行研究を行っており、選択テーマの取り巻く状況を把握し、海外フィールドワークで行うためのアクションプランを立てています。

今年度は特に生徒の興味や主体性に重点を置いて活動を進めていきます。ゼミ教員が精一杯ファシリテートします。どうぞご期待ください!



## 1 環境調査 プロジェクト 吉岡ゼミ 20名

いくつかの環境問題に対して、調査や実験を行うことで、何が問題となっているのか、改善に向けて高校生でもできることは何かを考える。

## 2 環境教育 プロジェクト 木下・上村ゼミ 10名

日本や欧米諸国のリサイクル先進国の環境教育事例を参考にカンボジアでできる環境教育について模索し、現地の農村部と都市部の小学生を対象に実践していく。



## 3 国際医療・看護 プロジェクト 音田ゼミ 25名

SDGsの3「すべての人に健康と福祉を」に焦点を当てる。途上国における医療向上、健康増進のために、高校生ができることを考え、実践する。

## 4 循環型社会形成 プロジェクト 茅原ゼミ 8名

国内で起きた公害問題を調査し、日本がどのような歴史的経緯をたどりながら循環型社会を形成するにいたったのかを考察する。

## 5 観光政策提言 プロジェクト 羽多・橋谷ゼミ 23名

カンボジアの観光業は急成長を遂げている一方、経済、社会的な課題は残る。そこで、高校生目線での問題解決に向けた調査・取り組みを行う。

## 6 スポーツ支援 プロジェクト 今井・金田ゼミ 7名

世界の体育授業を比較した上で、カンボジアにおける学校体育の問題点を調べ、その対策案を立て、現地の学校へ提案する。





## 7 国際理解教育 プロジェクト ニコル・墨江ゼミ 24名

SDGs に含まれる教育格差や貧困撲滅など地球規模の問題について小学校で出前授業を行い、解決のために何ができるのか考え、具体的な行動を促す授業案を提案する。

## 8 ソーシャルビジネス プロジェクト 宇根ゼミ 21名

カンボジア自国産業である縫製業の問題点を課題研究として明らかにし、現地高校生と日系企業との商品開発を行うことで、外資依存を脱却する方法を考察する。

## 9 栄養・保健 プロジェクト 藤田ゼミ 19名

カンボジアに未定着の栄養・保健の知識について、現状を調査する。そして主に子どもたちの現状改善に向けての対策を検討し、現地の小学校などで実践する。

## 10 カンボジア教育支援 プロジェクト 正体ゼミ 14名

発展途上国の幼児教育において、遊びや玩具の支援を通して道徳観・規範意識を育み、貢献する。また、保育士の遊びや玩具に対する意識を改革する。



## 11 女性と社会 プロジェクト 瀧川ゼミ 8名

カンボジアの女性が抱える課題や社会的役割などを、日本社会と比較研究、またカンボジア現地調査も行う。それらを通して、カンボジア社会における女性の生き方を考察する。

## 12 価値観分析 プロジェクト 青木ゼミ 24名

さまざまな国・文化圏の価値観を比較して、より相手目線の支援のあり方を探求する。自利利他円満を満たす「理想的な支援」策定のための根拠を見つけることが目標。

## 13 多文化共生 プロジェクト 齋藤ゼミ 19名

岡山市や西大寺など、各地域における多文化共生に関わる問題や政策を調査し、問題の解決、政策の改善を行うために考察を行っていく。

## 14 海洋研究 プロジェクト 柳ゼミ 16名

瀬戸内海から世界へ発信し、注目を集めている「里海」。日生湾でのアマモ再生活動を通して海を実感。更に、干潟生物多様性調査や課題研究に主体的に取り組む。

# ■グローバル課題研究Ⅲの特徴



＜ 3年次の目標 ＞

研究活動の振り返りを通じた研究活動の再策定

- ①2年次の研究の再策定を行う。
- ②成果物の提出を必須とする。  
(Action Report、研究ポスター)
- ③研究活動の集大成として、外部コンテストに積極的に参加する。



# ■ 課題研究と海外研修の関連性



## ① 海外研修（海外フィールドワーク）

1年生：現地調査を目的 } 年2回の  
2年生：実践活動を目的 } FW

## ② 課題研究との関連性

- ・ 社会課題を自分の力で発見する
- ・ 全てのアンケート項目で20%UP  
(5つの資質を計るアンケート)

# ■ 評価方法

## ① 5つの資質能力の間接的評価

→ グローバルアンケート(54項目)

## ② 5つの資質自己成長評価

→ 自己成長評価ルーブリックの作成

## ③ 課題研究評価

→ 課題研究ルーブリックの作成

# 岡山学芸館SGH 自己成長評価ルーブリック

観点	自己の成長	チームの成長	校外への広がり	世界への広がり
評価レベル	Stage 1	Stage 2	Stage 3	Stage 4
グローバルマインド	他国で起こっている社会課題が自分との関連性があることを理解し、グローバルマインドを自分なりに定義できている状態。	他者の考え方や捉え方を他者の価値観を基に理解することができている状態。他者を否定せず受け入れるマインドを持っている状態。	社会課題の解決のために、他者同士が協働、協力していかなくてはならないことを理解し、校外活動に対して積極的に参加できている状態。	海外の社会課題に対して、自らのテーマからの視点に留まらず、多面的に捉え、理解することに努めることができている状態
問題解決力	興味のある社会課題に対して、その問題の構造を分析し、理解することができている状態。（問題の原因について理解できている状態。）	興味のある社会課題の構造を理解した上で、その解決に必要な行動策定を考えることができる状態。	興味のある社会課題の解決（研究活動）のために行動策定を校外の外部機関と連携して行っている状態。または協力を得られている状態。	興味のある社会課題の解決（研究活動）のための行動をカンボジアで実践することができている状態。
交渉型コミュニケーション能力	自らの意見をはっきりと相手に伝えることができている状態。また、英語を用いて意見交換をするスキルが大切であると感じている状態。	相手の意見を尊重した上で、自らの意見をはっきりと相手に伝えることができている状態。また、CEFR A2以上の英語力を有している状態。	課題研究や興味関心を深めるために、NPOや企業に相談・助言をもらっている状態。またCEFR A2以上の英語力を有している状態。	課題研究を深めるために、国外の機関と協力交渉が実現できている状態。また、CEFR B1以上の英語力を有している状態。
協働力	課題研究やグループワークを行う際、自分の役割を捉え、チームのために行動することができている状態。	課題研究やグループワークを行う際、全員の役割分担を明確に把握し、自らの役割を全うできている状態。	課題研究や興味関心を深めるために、国内のNPOや企業等の外部機関と協力体制を構築するために行動できている状態。	課題研究や興味関心を深めるために、国外のNPOや企業等の外部機関と具体的な協働方法を構築するために行動できている状態。
実践力	校内で募集しているボランティア活動や校内行事実行委員会（文化祭実行委員、体育祭実行委員）または、社会貢献活動に参加している状態。	校内で募集しているボランティア活動や校内行事実行委員会（文化祭実行委員、体育祭実行委員）または、社会貢献活動に対して、継続的（年間複数回）に参加できている状態。	校外の課題研究発表会や勉強会に参加し、自らの想いや考えを発表したり伝えたりすることができている状態。	校外の課題研究発表会や勉強会に参加し、自らの想いや考えを英語で発表したり伝えたりすることができている状態。

# ■ 評価方法とエビデンスの収集



## ① 5つの資質能力の間接的評価

→ グローバルアンケート(54項目)

## ② 5つの資質自己成長評価

→ 自己成長評価ルーブリックの作成

## ③ 課題研究評価

→ 課題研究ルーブリックの作成



# 岡山学芸館SGH 課題研究ルーブリック

観点	準備	行動	チェック	明確化
評価レベル	Stage 1	Stage 2	Stage 3	Stage 4
問題意識の設定	興味関心が定まっており、何に対して研究活動するのかがイメージできている状態。	先行研究で何を行うのかが明確になっている状態。（読む本、論文、調べるデータ等が分かっている）	先行研究を通して、研究を行う社会課題が客観的に立証できている状態。（問いが問いとして成立している状態）	研究タイトルおよびサブタイトルが決定しており、明確に課題研究の問題意識を他者に説明できる状態。
Action Planの策定	問題意識がある程度明確化されており、その解決にあたりどのような活動が効果的であるか議論できている状態。	問題意識をある程度明確化されており、自分達が、どこに、何を、どうやって活動するのかが議論できている状態。	問題意識が明確化しており、どこに、何を、どうやって活動するのかが決定している状態。また、効果測定の議論ができている状態。	問題意識が明確化しており、どこに、何を、どうやって活動するのかが、また効果測定の準備が完了している状態。
Action Planの実行	問題意識に対応した行動になっているか確認ができている状態。また、外部連携機関が決定している状態。	活動の日時、場所が決定しており、行動の準備がすべて整っている状態。	実際に行動を行い、活動状況をポートフォリオ化できている状態。（活動履歴を残せている）	実際に行った行動を振り返り、その効果を測定し始める準備が整っている状態。（取得したデータの整理ができている状態。）
Actionの効果測定	自分達が取得し整理したデータから、問題意識に従ったデータを抽出できている状態。	抽出したデータの関連性を明らかにし、グラフ等により適切にデータの可視化が行われている状態。	抽出したデータの関連性を明らかにし、問題意識に呼応したものであることを論理的に明らかにできている状態。	今一度、問題意識の設定から行動、効果測定までを整理し直し、論理的な道筋が立てられているか確認できている状態。
研究の考察	自分達の先行研究、問題意識、Action、効果測定のすべての素材がそろっていることを確認できている状態。	問題意識（リサーチクエスチョン）の答えとなる結論を、データに基づく事実（根拠）としてまとめられている状態。	得られたデータ（事実）から新たな問いを発見し、次年度に向けた引き継ぎ事項がまとめられている状態。	すべての成果物の作成が完了し、自分達の研究活動のすべてが可視化されている状態。

# ■教科のSGH化

## ①指導法の改革

- ・理科、情報、国語、公民、英語

## ②カリキュラムの改訂

- ・コミュニケーション英語
- ・国語の論理力向上

## ③受験指導の改革

- ・論理性を意識した受験指導の推進

# ■カリキュラム開発研究の成果と普及

## ①小中学校への連携活動

→5校7回の連携活動を実施

## ②公式Facebookの活用

→平均リーチ数1200

## ③英語力の向上

→CEFRB1以上39%（卒業時）

## ④研修参加者の向上

→国内FW:166名 海外研修:138名



## ■カリキュラム開発研究の成果と普及

⑤ 高大連携特別プログラムの開始  
→ 3年間の継続プログラム

⑥ NPOと協働した独自プログラム  
→ ソーシャル・リーダーシップキャンプ

⑦ 海外受け入れ生徒数の向上  
→ 長期35名、短期216名の受け入れ

SGHの取り組みを通して外部とつながり  
新たな広がりを生んでいる。



# ■ 課題意識

## 課題①

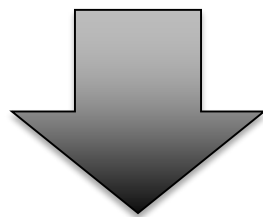
「将来国際的職業で世界で活躍したい」という質問項目に対する意識の低さ。

## 課題②

意識の向上は2年生がピークであり、3年生では下降する傾向がある。

# ■ 課題意識への対策

課題の解決策  
生徒の主体的な研究活動の推進



教員のファシリテーター化  
ルーブリックの更なる活用

ご清聴ありがとうございました。